

2025 年度入試

国語編

<関西大学>

現代文

- ★ 本文の長さは約 4400～5800 字程度で、例年通りであった。日程により字数の変動はあるが、今年度は昨年度ほど字数の変動が激しくなかった。
- ★ 設問数は、記述問題が出題される日程とそうではない日程があるが、記述問題が出題される日程では記述問題が 1 問、漢字問題が書き取りの記述式（計 2 語）と書き取りのマーク式（計 5 語）がそれぞれ 1 問ずつといった構成になっている。なお、マーク問題のみが出題される日程では漢字問題が 1 問（計 5 語）、読解のマーク問題が 7 問の計 8 問となっている。
- ★ 今年度も例年通り、記述問題が出題される日程は 3 日程であった。
- ★ 設問は、漢字問題以外は本文に一切傍線を引くことなく、設問の中で“問う内容”を提示する例年通りの形式である。
- ★ 漢字問題は、日程にもよるが書き取りの記述式が 2 語、書き取りのマーク式が 5 語であり、例年通りである。なお、全学日程 2（2/5、2/6、2/7）は、マーク式のみである。
- ★ 記述問題の制限字数は、例年通り 50 字以内で統一されていた。
- ★ 例年通り空所補充など、現代文における標準的な問題は一切なく、関西大学特有の出題形式が続いている。
- ★ 記述問題は、該当箇所を抜き出してまとめるだけの問題もあるが、考えて書かないと、書く場所を間違えてしまいやすい問題も出題されることがある。

【対 策】

例年通り長い文章に読み慣れる練習と、文章の内容を設問ごとの話題に沿って読み取る練習が必要である。

記述問題は設問をしっかりと読んで、本文のどこが問われているかきちんと見極める練習をしておきたい。

また、漢字問題で案外点数の差が出る。漢字問題に弱い受験生が多いので、他の受験生と差別化をはかるためにも、漢字問題で完答できるようにしておきたい。

古文

- ★ 本文の長さは、800字～1500字程度。
- ★ 例年通り、問題文に至る経緯や登場人物を説明する前書きが付いていることが多く、語句にも注が付けられている。
- ★ 設問数は、選択肢問題8問＋記述1問、オールマークの場合は10問と統一されている。
- ★ 文法問題・語義などの設問は独立して設けられてはおらず、知識そのものを問う形での出題はない。知識を問う場合は、選択肢の中で判断させる形となっている。
- ★ 例年通り、記述現代語訳を除いて傍線部は引かれていないが、現代語訳を問う場合は、主語を明らかにして訳させる出題形式で統一されていた。
- ★ 文学史からの出題はない。

国語の入試問題といえば、長文総合問題で、基本形式としては文章中に傍線を引いたり、空所を設けたりしてそこへ設問をつけるというのが主流であるのに対して、関西大学の古文は現代語訳のための一箇所以外は傍線を引かず、内容を問う形式が基本である（記述問題が出題されない日程では傍線部がない）。

関西大学の問題形式からして今後も物語・擬古物語・説話といった登場人物達のドラマを描いた文章からの出題が多いと予想される。もちろん日記など、上記の文章以外から出題されるときもあるが、その場合も選択肢を使いながら、本文の内容と合致する選択肢を選ぶ解き方は変わらない。

記述式の現代語訳は、単純に表面上の字面を単語帳で覚えた訳語に置き換えるだけの問題も出題されてはいるが、物語内容を把握しなければうまく訳せないような問題も出題されている。今年度は、すべての現代語訳で主語を明示しなければならなかった。

【対策】

読みづらい文章から出題されたとしても、選択肢に重複している箇所があるので、それをヒントにして本文にどのような記述が書いてあるか判断していくことが必要である。その際に、古文単語や文法の知識があれば有利になる。もちろん読解力も必要になるが、まずは長い選択肢であっても最後まで比較し続けられる集中力をつけるようにしておきたい。

＜関西学院大学＞

現代文

- ★ 本文の長さは 3500～4200 字程度が中心。
- ★ 設問数は、12～15 問でほぼ例年通りであった。
- ★ 今年度はすべて評論・随筆の出題で、小説はなかった。
- ★ 設問形式は、関西大学、同志社大学と異なり、立命館大学と同様、形式・内容ともに多様な設問が並ぶ。
- ★ 記述問題は昨年に引き続き、今年度もなく、3 日程で抜き出し記述があっただけだった。
- ★ 語句の知識を問う問題は昨年度より減った。

漢字や語句の意味など基礎知識に関する問題、空所補充問題、脱文挿入問題、内容・理由に関する問題、文中から設問要求に該当する箇所を抜き出させる問題など、例年通り多様な形式の問題が出題されている。総じて難問奇問はなく、標準的な選択肢である。

【対 策】

基本的な語彙力をつけ、標準レベルの問題演習を反復することが必要である。なお、小説や随筆（エッセイ）から出題されることもあるので、小説や随筆（エッセイ）の学習もしておく方が無難であろう。知識問題では、確実に得点したいものである。そのためにも日ごろからの地道な学習が望まれる。

なお、今年度も記述問題がなかったが、今後もないと判断することはできない。

古文

- ★ 本文の長さは 1000～1400 字程度が中心。
- ★ 独立した設問数は、13～15 問で、ほぼ昨年並み、1 日程だけ全 8 問であったものの、枝問を含む設問もあるため、総解答数は平均約 19 個で、昨年より微増。4 大学中、解答数は最も多い。
- ★ 語句の意味を問う設問が頻出で、その語数も 3～6 題程度。
- ★ 今年度は 6 日程すべてで文法問題が出題された。
- ★ 記述形式の現代語訳は、2/3、2/4、2/6、2/7 の 4 回。
- ★ 内容説明記述は、2/4、2/7 の 2 回出題された(2/7 は 3 字以内で空所を補う形式)。
- ★ 出題形式、出題内容ともに、立命館大学と並んで多彩、多様。

問題文は平安期～江戸期の文章で、ジャンルも物語、紀行、説話、お伽草子、歌物語、作り物語風日記、擬古物語、随筆、俳文と多岐にわたる。関西大学、同志社大学、立命館大学ではあまり見られない、江戸期の文章や、随筆など非物語系の文章の出題がままある。

設問のタイプも多岐にわたっている。関西学院大学の古文は、設問にできる部分は何でも問うというスタイルで、単純な古語の意味や古典常識、文法といった基礎的知識に関わる出題も多い。もちろん、受験古文のオーソドックスである傍線部解釈、それから内容説明、心情説明、といった内容の理解度を測る設問も、様々な観点から検討しなければならない空所補充問題もある。

マーク式の現代語訳(解釈問題)は、時に前後の文脈や場面が分かっていなければ選択肢を絞り込めないものも出題されるが、(前後の文脈が分からなくとも) 素直に傍線部を語学的に分析すれば選べる問題も多い。

記述式の現代語訳は、基本的な古語や文法に留意し素直に訳せばよい、標準的な知識で処理できるものがほとんどである。

ごくたまに漢文の知識を必要とする出題もある。

同志社大学と同じく内容説明を求める記述問題が時に出題されることがあるが、字数はそれほど多いものではない。

関西学院大学の古文は総じて知識問題を中心とした標準的な問題で、基礎的問題も多く、あまり難問・悪問・奇問は含まれていないので、全般的には、「標準」といえるだろう。

【対 策】

古語・敬語・古典関係の常識的事項などがそのまま出題されるので、学校の授業を重視し、国語便覧やハンドブックを活用するなど、地道な学習の積み重ねが大切である。馴染みのない出典が時にあるが、設問内容からいって、いわゆる受験のスタンダードな文章、すなわち、平安文学を中心に学習しておけばよい。学習素材としては、平安期～

鎌倉の物語・擬古物語、説話などを中心に、余裕があれば、近世の文章もいくつか読んでおくといよい。各自の学力のレベルに応じた無理のないステップ学習が实际的である。

＜同志社大学＞

現代文

- ★ 本文の長さは、設問内の引用分を含め、約 6200～7000 字程度。例年通りの長さであった。設問レベルも、例年通り標準であった。大問が 2 題出題された年もあったが、今年度は、大問が 2 題出題された日程はなかった。設問内に本文と同じ本の別の箇所からの引用を載せ、その文章の内容を問うという問題が、今年度は 2 日程で出題された。
- ★ 独立した設問数は、6～7 問である。
- ★ 慣用句・四字熟語を問う問題や、適切な語句を入れさせる空欄補充問題が全日程で出題されていたが、今年度は 3 日程のみになった。
- ★ 例年同様に傍線部の内容を答えさせる設問を中心に、内容の真偽や論旨に関わる設問、理由説明問題等、文章の内容理解を求める設問で構成されていた。
- ★ いわゆる「良問」が多く、選択問題で正解の根拠がつかみにくい大学と比べると、取り組みやすいといえる。文章内容も抽象的なものではなく、文意もとりやすいものであった。
- ★ 記述問題は配点も高く、同志社大学入試の眼目である。

設問数は四大学中最も少ないが、論旨の把握や内容の具体的理解度を確かめようとする出題のねらいは、例年一貫している。ただ、空所補充問題で得点するためには、普段からの語彙力の強化が必要である。

記述問題は、本質的には出題文全体の論旨をふまえた上で説明する必要がある問題である。制限字数は全日程 40 字以内。配点は現代文の 90 点中 30 点を占めているとされるので、記述問題の出来が成績を左右するといっても過言ではないだろう。

【対 策】

同志社大学の特徴の一つである本文の長さへの対策が必要である。抽象的な思考に慣れていない受験生や、長文を読み慣れていない受験生は苦勞するものと思われる。ただし、設問は平易であるし、評論に多く触れるという練習を積みれば対応できる範囲である。そうなれば、いわゆる『赤本』（教学社）の古い版にも挑戦するのが良いと思われる。

次に、記述問題だが、50 字、60 字の字数が必要であるのに 40 字で書かせるというパターンが多く、字数をまとめ上げるのに苦勞する受験生が多いことであろう。したがって、枝葉末節を削って的確を絞り込んだ記述力が必要になるので、そうしたことを意識しながら記述の訓練をしていくことが望ましい。

古文

- ★ 本文の長さは、900～1600字程度。
- ★ 独立した設問数は7問前後が多く、枝間を含めても解答個所は少ない。1問あたりの配点が高くなるため、取りこぼしが怖い。
- ★ 意味（単語）問題や文法問題、傍線部解釈問題や内容説明問題、内容合致問題が中心。
- ★ 例年は漢文に関連した問題は出題されていたが、昨年度に続き今年度も出題はなかった。
- ★ 昨年度は出題されなかった主体判定問題は、2日程だけではあるが出題されていた。
- ★ 基本的な語義・文法問題が例年通り出題されていた。
- ★ 今年度も制限字数30字以内の記述が出題されていた。

もちろん日程によって異なるが、枝間も含めて単語・語義（2）、傍線部解釈（3）、文法（1）、内容合致（6者2択）、記述問題（30字以内）の計8題の解答が基本的なパターンである。時々、主体判定問題や漢文に関する問題などが出題されることもあるが、基本的なパターンは上記の通りである。

古語の単語・語義問題は、おおむね重要古語の辞書的な意味を問う問題が中心だが、一部受験用単語帳では馴染みのない古語から出題されることもある。傍線部解釈や内容説明は、話の内容がつかめていなければ選択肢を絞り込めない時もあるため、読解力がないと高得点を取ることができない形式になっている。ただし、総じて標準的なレベルである。

記述問題は、例年通り傍線部の現代語訳ではなく、自分で作文するものである。その際、本文を正確に読めていないので書けない、書くべきことが見えない、ということにならないよう、日ごろから文章をしっかりと読む練習をしておきたい。

【対策】

文法や古文単語の暗記といった基礎学習はしっかりとやっておきたい。その上で学校の授業もうまく活かし、文章の細部まで丁寧に解釈し、全体の主旨を的確に理解したり表現したりする力を養っていきたい。同時に、なるべく多くの記述問題にも取り組んでおくのが望ましい。

<立命館大学>

現代文

- ★ 他大学と比べて、比較的取り組みやすい文章から出題されることが多かったが、最近
は少し読み取りにくい文章が出題されるようになってきている。読みづらい文章でも
文意をつかむことができるように訓練しておきたい。
- ★ 独立した設問数は、2題合わせて14～16問。
- ★ 漢字の書き取り、読み取りは主に記述式である。
- ★ 今年度の文学史は、5日程中3日程で出題された。
- ★ 理由説明や内容説明に関する出題は当然のことながら、脱文挿入問題、抜き出し問題
が出されるなど、関西学院大学と並んできわめて多様な設問形式が特徴。
- ★ 同志社大学、関西大学のような、まとまった字数を書かせる記述問題はなく、本文中
からの抜き出し問題が出題されている。
- ★ 今年度も小説からの出題はされなかった。

2題合わせると文章量が多く、しかも、内容も取りづらい文章が昔に比べて増えてきている
ので、しっかりとした読解力を付けておく必要がある。

出題の形式が様々であるのが立命館大学の特徴であるが、空所補充問題の出題率が高い。
根拠を見つけづらい問題の場合は、受験生にとって頭痛のタネであるので、確実に解ける問
題に時間を使って優先的に解く方が良いように思われる。なお、抜き出し問題に答える場合
に漢字を間違えて書くという単純なミスをしないようにしたい。

【対 策】

ごく標準レベルの評論文を中心に本文の叙述、文言の意味、解釈を重点的に語義や読みな
どもにも留意した、幅広いオーソドックスな学習が対策としては望ましい。関西学院大学と同
様に、多様な設問形式であるということを理解しておき、多様な形式に慣れる学習を普段か
ら継続的にしておきたい。基本に忠実に、設問が求めている箇所を理解する力をつけておき
たい。

古文

- ★ 本文の長さは、1300～1700 字程度で、昨年度よりやや増加。
- ★ 独立した設問数は 1 日程を除き 8 問で、昨年度とほぼ同じ。
- ★ 選択式の傍線部解釈問題は多くなく、説明、内容把握、内容合致など、物語の流れ（ストーリー）をたどることができているかどうかを問う問題が目立つ。
- ★ 記述式の現代語訳（解釈）2 題は、5～12 字以内という条件を付して、全日程で出題され、昨年度の形式を踏襲している。
- ★ 内容合致問題は全日程で出題された。
- ★ 難易度は昨年度と変わらないという印象がある。

関関同立の中で最も難易度が高い出題となっている立命館大学古文。今年度も本格的な読解力を要求する文章が多かった。

今年度の出典は、物語では作り物語『堤中納言物語』(2/2)、室町物語草子『文正草子』(2/3)、擬古物語『風に紅葉』(2/7)、歌論では『俊頼髓脳』(2/1)、江戸時代の『新学異見』(2/4)であり、日記・随筆からの出題は見られなかった。物語からの出題は例年通りであり、立命館大学の頻出出典である『源氏物語』からの出題は、今後も警戒が必要であろう。

入試古文の典型である傍線部解釈問題の出題は少なく、敬意の方向を含む敬語に関する設問(2/2、2/3、2/7)や、傍線部の内容説明や理由など文章内容の理解度を問う問題のウェイトが高い。空欄補充は内容理解を踏まえつつ 2 日程(2/4、2/7)を除いて出題された。また、内容合致問題は全日程で出題され、6 つの選択肢より 2 つを選ぶ形式だった。

総じて、話の概要や、場面や情況、登場人物の言動・態度および心情、人物相互の関わりや立場などが誤りなくつかめているかどうかを見ようとする意図が、設問形式のいかんを問わずうかがえる。

知識面に関する設問としては、敬語を含む文法問題は全日程で出題され、文学史に絡んだ問題は 1 日程(2/1)のみ。和歌に関連する問題は 2 日程(2/1、2/7)で出題された。

記述式の現代語訳 2 題が必出なのは例年通り、昨年度に引き続き今年度も傍線部自体は短く、1～4 語程度、多くは「1 自立語+1～3 付属語」といったようなものだが、5～12 字以内という条件が付された。

【対策】

文章に即して、その都度、必要な知識や文法などを確認することによって、古文の解釈力をつけるような学習を心掛けると良い。主語や目的語を補い、曖昧な箇所や、語学的に幾通りもの解釈が可能な箇所も、適切な推測によって物語として文意が通じるような解釈を選び取り、文章全体の流れを的確に把握する力を養成しておきたい。標準レベルの教材を中心にやや難易度の高いものまで幅広く当たっておくこと。また、立命館大学の問題はこれまで注が少ない傾向にあったが、今年度は適切に付されていた。『源氏物語』、『和泉式部日記』や『蜻蛉日記』など、頻出される出典については、おおまかなストーリーや主要登場人物に関する知識を頭に入れておくこと。さらに、平安中期の貴族社会の主要人物に関する知識、古典常識も

身につけておくことを勧める。

参考：記述式現代語訳問題

「事たかく」「いたくなわびそ」「さま変へたまひにけり」「よろづむつかしき」「せきかねたる」「便なきこと」「身におはず」「いとあやなし」「おぼしやすらふ」「ことごとしう」

※ 各項目の《難》《易》等の記号は、本文の内容の難易度、設問全体の総合的難易度。

試験日	出典	本文	設問
2/1	八鍼友広 『読み書きの日本史』	近代読者とは、音読から離れただけではなく、個人として孤独に書物に向き合い、内省的に自我を形成する者のことである。ただし近代読者の孤独の本質は、単に一人にいるということではなく、自己の存在を自己自身によって決定しなければならないという近代社会に特有の考え方に起因する。 《約4900字》《標準》	漢字の書き取り(記述1)計2題 漢字の書き取り(マーク1)計5題 要点整理(5) 内容説明(50字記述1) 全8問《標準》
2/2	玉手慎太郎 『公衆衛生の倫理学—国家は健康にどこまで介入すべきか—』	個人が責任を有する主体であるという見方は、自由で平等な存在として社会に参加していくための不可欠な条件であるが、それが自己責任論に結びつくのは望ましくないため、自己責任論への批判と個人の主体的努力の擁護とを両立させていかなければならない。 《約5300字》《標準》	漢字の書き取り(記述1)計2題 漢字の書き取り(マーク1)計5題 要点整理(5) 内容説明(50字記述1) 全8問《標準》
2/3	船木亨 『倫理学原論』	従来倫理学は、個別的な事例の判断から普遍化してきた。しかし善が直感されるとするならば、倫理を意識的思考の結果として捉えるべきではなく、人間精神の発生する現場を身体経験を通して探究する哲学として捉えるべきである。 《約4400字》《標準》	漢字の書き取り(記述1)計2題 漢字の書き取り(マーク1)計5題 要点整理(5) 内容説明(50字記述1) 全8問《標準》
2/5	鶴田想人 「「人生の意味」は誰のものか 人生の意味へのコミュニケーション的アプローチ」	コミュニケーションにおける発話の意味が、話し手と聞き手とのあいだに形成される「集合的信念」とそれを支える「共同コミットメント」によって決まるように、人生の意味も一人称的に理解しようとする主観説や、三人称的に理解しようとする客観説だけで決まることはない。 《約5800字》《標準》	漢字の書き取り(マーク1)計5題 要点整理(7) 全8問《標準》
2/6	森明子 「マイノリティの歴史学—オリエンタリズム、ジェンダー、ポスト・コロニアリズム」	マイノリティの歴史学にはオリエンタリズム、ジェンダー、ポストコロニアリズムといった三つのキーワードが与えられている。これらの三つのキーワードを「歴史/物語りの哲学」という視点から考えることは、物語論が歴史の抑圧・隠ぺい作用を明るみに出すものであることを考えれば妥当なものである。 《約5500字》《標準》	漢字の書き取り(マーク1)計5題 要点整理(7) 全8問《標準》
2/7	福間良明 「人生雑誌に映る戦後」	1950年代半ばは「人生雑誌」が盛り上がっていた時代であった。そこでは平易な人生論のみならず、哲学やマルクス主義系の書物も紹介されていた。その読者たちは「上昇思考」ゆえに希望や期待が裏切られる経験をしており、それは同時に「戦後の歪み」も反映しているため、人生雑誌を見渡すことは戦後を問うことにもつながる。 《約5000字》《標準》	漢字の書き取り(マーク1)計5題 要点整理(7) 全8問《標準》

※ 各項目の《難》《易》等の記号は、本文の内容の難易度、設問全体の総合的難易度。

試験日	出典	本文	設問
2/1	田崎英明 『言語の起源、歌の起源』	動物と人間とを対比し、他の歌う動物の歌と人間の歌(音楽)との違い、人間の言語によってしか表現できない一人称と二人称という問題、そして、動物と人間の世界認識のありかたの違いを語った文章。 《約3240字》《標準》	漢字書き取り(1)計4題 漢字の読み(1)計2題 脱文挿入(1) 語句の意味(1) 理由説明(1) 空欄補充(4) 文学史(1) 文学作品の中から軍歌に用いられたものを選ぶ(1) 内容説明(2) 内容理解(1) 内容合致(1) 全15問《標準》
2/2	西成彦 『ラフカディオ・ハーンの耳』	16歳で不慮の事故によって左目を失明し、読書が過ぎて右目の視力も衰えていくラフカディオ・ハーン。ゆえに漢字学習を放棄した日本語「文盲」の彼だったからこそ、「文盲」と呼ばれた一般庶民と同じ感性で、社会的に低い位置から日本文化、日本文字文化を体験し、文字を、まるで妖精達が踊る光景を眺めるように味わい、漢字を単なる意匠として、また呪術の効果を持つ文様としてとることができるのだという文章。 《約4260字》《やや難》	漢字書き取り(1)計3題 漢字の読み(1)計2題 脱文挿入(1) 語句の意味(3) 内容理解(2) 空欄補充(3) 内容説明(1) 理由説明(2) 文学史(1) 全15問《やや標準》
2/3	前田健太郎 『女性のいない民主主義』	男女差別をしないはずの組織においても、結果的には大きな男女の不平等が生まれている。その理由は、積極性があり競争的な「男らしい」行動を求める組織規範と優しく包容力のある「女らしい」行動を求めるジェンダー規範という「ダブル・バインド」に女性が直面せざるをえないところにあると分析している。 《約4290字》《標準》	漢字書き取り(記述)(1)計3題 漢字の読み(記述)(1) 脱文挿入(1) 内容理解(抜き出し・5字・6字)(2) 空欄補充(3)計5題 内容理解(1) 理由説明(抜き出し16~20字)(1) 内容説明(1) 理由説明(1) 全12問《標準》
2/4	大岡信 『あなたに語る日本文学史』	詩人であり評論家でもある大岡信が、高浜虚子の「写生」を語る。写生とは、畢竟客観、見えたものを見たとおりに書く技の問題であって、書く対象、書く人間の思想・想念はどうでもいい、徹頭徹尾、技術の問題である。そして、虚子の「去年今年貫く棒の如きもの」という句の凄み、恐るべき広がりについて語っている。 《約3510字》《標準》	漢字書き取り(1)計3題 漢字の読み(記述)(2)計3題 内容説明(1) 内容理解(3) 内容理解(抜き出し・1字)(1) 語句の意味(2) 空欄補充(2)計3題 理由説明(1) 文学史(記述)(1) 全14問《標準》
2/6	星野太 『美学のプラクティス』	この約20年のあいだに、「関係性」というただの抽象名詞にすぎない言葉が、ひとつの「概念」へと転じていったさまを、「平成の大合併」により変化した政治的・経済的状況、地域共同体における生活環境の流動化、グローバル資本主義とインターネットの影響を通して語っている。 《約3750字》《標準》	漢字書き取り(1)計5題 漢字書き取り(記述)(1)計3題 内容説明(1) 語句の意味(1) 内容理解(3) 空欄補充(記述)(1) 空欄補充(2) 理由説明(1) 語句の意味(記述)(1) 内容合致(1) 全13問《標準》
2/7	村上陽一郎 『日本近代科学史』	人間は大昔から体験を通じてあるパターンをもった因果関係を知識とし、経験法則を得てきた。そこから「技術」というもの、「科学」というもののあり方を説明し、両者の関係を語っている。 《約3780字》《標準》	漢字書き取り(記述)(1)計2題 漢字書き取り(1)計3題 漢字の読み(記述)(1)計2題 内容理解(抜き出し16~20字)(1) 内容理解(3) 空欄補充(1) 空欄補充(抜き出し)(1) 理由説明(1) 内容説明(1) 内容合致(1) 文学史(1) 全13問《標準》

※ 各項目の《難》《易》等の記号は、本文の内容の難易度、設問全体の総合的難易度。

試験日	出典	本文	設問
2/5	山守伸也 「日本人は日記とどう向き合ってきたか」	「毎日の出来事や感想などの記録」と辞書的に定義される「日記」は、どのような手段を使ってもよく、きわめて幅広い対象を包含するものであるが、この「日記」なるものに対して、日本人がどのように向き合ってきたかを、歴史的変遷を追いながら、「日記」という営みや意味付けの系譜にも着目して検討した文章。 《約6300字》《標準》	内容説明(4) 本文内容合致(1) 内容説明(40字記述) 全6問《標準》
2/6	納富信留 『世界哲学のすすめ』	あらゆる時と場所を通じて妥当し適用可能な命題や判断のあり方である普遍性は、学問的知識の条件であり、通常は、自然科学の本質だと考えられているが、その普遍性をどう捉え、それをどのように確保していくのが哲学の基本問題であり、人間という生物種のあり方を理解する鍵であると論じた文章。 《約6200字》《標準》	内容説明(3) 具体例問題(1) 本文内容合致(1) 内容説明(40字記述) 全6問《標準》
2/7	福永健一 「なぜラジオは親密なメディアか」	米国のラジオ放送界で醸成されてきたラジオの「親密さ」とは、身体的な距離の近さと心理的な距離の近さであったが、なぜ、ラジオを介した口調によって、このような身体的・心理的な距離の近しさが喚起されるのかを、音声に含まれる情報とその認知の仕方、音声コミュニケーションのモードとテクノロジーの関係から論じた文章。 《約6200字》《標準》	内容説明(4) 本文内容合致(1) 内容説明(40字記述) 全6問《標準》
2/8	山本 圭 『嫉妬論』	消費社会のもとで、誰もが多かれ少なかれ誇示する資格を得ようになり、「誇示の民主化」ともいべき現象が起こったが、誇示者は嫉妬者の承認にますます依存するようになり、その自慢にはかつてのような威信は見られず、どこか不安げである。現代社会もその延長線上にあり、それらに拍車をかけているのは、マスメディア、さらにはインターネットであると論じた文章。 《約5000字＋設問内引用約1300字》《標準》	空所補充(1) 内容説明(3) 設問内の引用文合致問題(1) 本文内容合致(1) 内容説明(40字記述) 全7問《標準》
2/9	鳥越けい子 『触発するサウンドスケープ』	私たちと外界とを繋ぐ感性の回路に風穴を開け、それぞれの土地に蓄積された記憶との生き生きとした交流を取り戻し、多様な聴取の在り方を取り戻すための古くて新しい手がかりであるサウンドスケープについて論じた文章。 《約7000字》《標準》	空所補充(1) 内容説明(4) 本文内容合致(1) 内容説明(40字記述) 全7問《標準》
2/10	岩立康男 『直観脳』	AIは、純粹に機械であり、持っている情報のほぼすべてがインターネット上にあるものに限られ、自然に忘れることはなく、変化するのは情報量だけであるのに対して、脳は、生身の人間と共にあり、その生身の人間が自然と接し、他の人間と接し、その中から五感を通して「身体知」を生み、また、それらを忘れることもできるというようなAIと人間の脳の違いについて論じた文章。 《約5400字＋設問内引用文約900字》《標準》	空所補充(2) 内容説明(3) 本文内容合致(1) 理由説明(40字記述) 全7問《標準》

※ 各項目の《難》《易》等の記号は、本文の内容の難易度、設問全体の総合的難易度。

試験日	出典	本文	設問
2/1	岡野八代 『ケアの倫理』	フェミニストで、倫理学者・心理学者であるキャロル・ギリガンは、『もうひとつの声』において、諸権利が競いあう場合に、客観的で公正な原理に基づき、形式的に優先順位をつけて道徳問題を解決しようとする思考様式である「正義の倫理」と、責任がぶつかりあうことから生じてくる道徳的問題を、具体的な語りのなかに文脈づけることで解決しようとする考え方である「ケアの倫理」のうち、後者の立場から、これまで劣っているとされてきた女性たちが発達過程を経て成熟に至るということを論証しようとしていると論じた文章。 《約4500字》《標準》	漢字の書き取り・読み取り(記述各1) 空所補充(抜き出し1) 内容説明(マーク3) 理由説明(マーク1) 脱文挿入(1) 本文内容合致(1) 全9問《標準》
	小宮信夫 『鉄道利用の最新防犯知識』	日本では、知っている人間(自己の所属集団)に対する規範と、知らない人間(社会一般)に対する規範の二重性を呈しており、この二つの行為規範が「うち」と「よそ」という言葉で表象される生活空間に応じて使い分けられることから、自分の所属集団の外側にいる人、つまり社会一般に対して、自分と無関係と考え、そのため、無関心・無責任になってしまい、防犯意識が低くなっていると綴った文章。 《約3500字》《標準》	空所補充(マーク1) 内容説明(マーク1) 理由説明(マーク1) 脱文挿入(1) 本文内容合致(1) 全5問《標準》
2/2	森村泰昌 『生き延びるために芸術は必要か』	人間の手がはいっているもの、人間が加工したものという意味では「品物」と「作品」には違いはないが、「商品」は「こういものがあつたらたのしいな、便利だな」という消費者のニーズにきちんとこたえてくれるものであるのに対して、「作品」は「ありえへん」世界を描いている。また、「作品」が展示されている「美術館」では、「こんなこと、ありえへん」という「わからなさ」が常態である。つまり、芸術とは、あらかじめわかっていることを再確認する「エンターテインメント」ではなく、ちょっと目がはなせないワンダーランドであると説明した文章。 《約4000字》《標準》	漢字の書き取り・読み取り(記述各1) 空所補充(マーク2) 内容説明(マーク2・抜き出し1) 理由説明(マーク1) 脱文挿入(1) 本文内容合致(1) 文学史(マーク1) 全11問《標準》
	朝倉友海 『ことばと世界が変わるとき』	自分を対象的に考えることしかできないと言えぬ場面と言えない場面とが混在しており、私たちはどちらかに決めることができずに堂々巡りとなってしまいが、そこには、私が私を知るときと、私が他のことを知るときとはやはり何か違うということが見落とされており、自己について対象的に知ることができないと言いつつも、自己についてはたんなる対象とは異なる種類の知り方がやはり可能であると論じた文章。 《約3300字》《標準》	空所補充(マーク1) 内容説明(マーク1) 具体例説明(1) 理由説明(マーク1) 本文内容合致(1) 全5問《標準》
2/3	齋藤孝男 『日本の隠遁者たち』	ヨーロッパ人は、「個」の主体の自由を神の自由から区別し、その「個」の行為によって確立されるものを「行為的主体」と考えるのに対して、日本人は、「個」は「個」でありながら、一つ一つが互いに連関しあつてむすびつき、共同体的主観性を形成していると考えているが、明治近代以降の多くの文学者は、家や農村共同体を離れて、東京という上京者(他所者)の多い都市の底辺にさまよい、共同体と「心の引き裂かれた状況」にありながら、「心は故郷に身は都会に」という実存不安をそのままに生きていたと論じた文章。 《約4600字》《標準》	漢字の書き取り・読み取り(記述各1) 空所補充(マーク1・抜き出し1) 内容説明(マーク3・抜き出し1) 本文内容合致(1) 文学史(1) 全10問《標準》
	山本貴光 『文学のエコロジー』	ある存在とその周囲の諸事物(生物・無生物を含む)のあいだにある、すべての関係を見て取るうとする観点を意味する「エコロジー」という見方を手がかりにして、文学作品には、何がどのように書かれているのか、ということ考えた結果、言語によって組み立てられた文学作品には、作品内世界の一部分が表現され、人間の認識や感情が反映されていると論じた文章。 《約3300字》《標準》	空所補充(マーク1) 内容説明(マーク2) 脱文挿入(1) 本文内容合致(1) 全5問《標準》
2/4	村上靖彦 『客観性の落とす穴』	患者の「痛い」という訴えが、検査データを見て客観を装う医療者の判断によって無視される、つまり客観性の名のもとに患者本人の声が聞こえなくなる場面を、医療現場の取材のなかでときどき見聞するが、このような私たち一人ひとりの経験が消されていくプロセスを、科学的な客観性による支配がどのように成立したのかを歴史的に振り返ることで確認していこうとする文章。 《約4200字》《標準》	漢字の書き取り・読み取り(記述各1) 空所補充(マーク2・抜き出し1) 内容説明(マーク2) 脱文挿入(1) 本文内容合致(1) 全9問《標準》
	成相肇 『芸術のわるさ』	パロディとは、既存の事物を活用し、価値解体作用を備えることが多く、弱者としての持たざる者、とくに大衆によって古くから親しまれてきたという意味で、決して胡乱なものではなく、広々とした健やかな表現であるのに、負の効果を(必ず)持つと考えられていること、図像的な類似が必須条件であると考えられること、という大きな二つの誤解がパロディにはあると論じた文章。 《約3300字》《標準》	空所補充(マーク1) 内容説明(マーク2) 理由説明(マーク1) 本文内容合致(1) 全5問《標準》
2/7	堀江敏幸 『中継地にて 回送電車VI』	第三者と相対してまったくべつの話をしているときに、ほとんど無意識におこなっている身振り手振りのなかに、身近にいた親の教えが顔をのぞかせることがあるが、その多くはその教えをうまく消化できなかったという後悔を伴ってであるということを、幸田文と露伴の関係に即して綴った文章。 《約4000字》《標準》	漢字の書き取り・読み取り(記述各1) 空所補充(抜き出し1) 内容説明(マーク2・抜き出し1) 理由説明(マーク1) 指示語(マーク1) 語句の意味説明(マーク1) 文学史(1) 本文内容合致(1) 全11問《標準》
	近内悠太 『利他・ケア・傷の倫理学』	通常、文明が進めば進むほど、科学と技術を行使することで、自然災害をどんどん抑え込めるようになっていく、と考えているが、寺田寅彦は「天災と国防」において、そうではないと言っているということを取り上げながら、文明とは、世界の傷つきやすさのことであり、文明は必然的に、ケアを必要としていると論じた文章。 《約3000字》《標準》	空所補充(マーク2) 内容説明(マーク2) 本文内容合致(1) 全5問《標準》

◆ 現代文 設問分析 ◆

設問類別			関西大学	関西学院大学	同志社大学	立命館大学	
知識	漢字書き取り	客観式	6(30)	5(18)	0	0	
		記述式	3(6)	3(8)		5	
	漢字読み取り	客観式	0	2(4)	0	0	
		記述式		3(6)		5	
	語・語句の意味・四字熟語			0	8	0	1
	文学史			0	4	0	3
空所補充		客観式	0	15(18)	4	11	
		抜き出し		1	0	4	
		記述式		1	0	0	
脱文挿入			0	3	0	5	
指示語・指示内容			0	0	0	1	
内容に関するもの			0	21	23	21	
理由・根拠に関するもの			0	7	0	6	
文法的説明に関するもの			0	0	0	0	
要点把握			36	0	0	0	
本文内容合致、論旨・主旨・主題に関するもの			0	3	6	10	
心理・心情に関するもの			0	0	0	0	
段落分け			0	0	0	0	
記述問題			3	0	6	0	
抜き出し問題(※空所補充以外)			0	5	0	3	
その他			0	0	0	0	

()は小問数

<関西大学>

古文 問題文・設問の概要

※ 各項目の《難》《易》等の記号は、本文の内容の難易度、設問全体の総合的難易度。

試験日	出典	本文	設問
2/1	『浜松中納言物語』	唐から帰国した中納言は、帝と和歌のやり取りなどをして過ごした一方、退出した後は唐で出会った女性のこと思い出され、しみじみとした様子であった。 《約1300字》《標準》	要点整理・内容把握(8) 現代語訳(1) 全9問《標準》
2/2	『源氏物語』	恋い慕っている女性にそっくりの少女を見かけた源氏は、後見人である尼君や僧都に少女を引き取りたいという旨を伝えたが、いい返事をもらえなかった。そのため後日、説得するために手紙や和歌を送った。 《約800字》《標準》	要点整理・内容把握(8) 現代語訳(1) 全9問《標準》
2/3	『源氏物語』	薫は、宇治の邸に浮舟を隠し住まわせていた。匂宮はそのことを知り、密かに宇治を訪れて浮舟と関係を持つようになった。しかし薫の使者が浮舟に手紙を届けたところ、匂宮の使者と出くわしてしまい、報告を受けた薫はとにかく浮舟の様子を知りたいと思った。 《約1500字》《標準》	要点整理・内容把握(8) 現代語訳(1) 全9問《標準》
2/5	『うつほ物語』	多くの男性から言い寄られていたあて宮は東宮妃となることが決まったが、東宮入りの日、あて宮を慕う実の兄の仲澄が正気を失って寝込んでしまった。いよいよという時、あて宮は歌を詠んで手紙を書いた。 《約1300字》《標準》	要点整理・内容把握(10) 全10問《標準》
2/6	『落窪物語』	落窪の君のもとに通い始めた少将だったが、雨が激しく降ったため行けそうになかった。そこで手紙のやり取りをしたが落窪の君は辛そうな様子だったので、少将は落窪の君のもとへ行く決断を下した。 《約950字》《標準》	要点整理・内容把握(10) 全10問《標準》
2/7	『とりかへばや物語』	大納言の家に生まれた子供は性格が真逆だったので、男児は女性として女兒は男性として育てられていた。男性として育てられた女兒は成長し、侍従として宮仕えするようになっていた。 《約1400字》《標準》	要点整理・内容把握(10) 全10問《標準》

<関西学院大学>

古文 問題文・設問の概要

※ 各項目の《難》《易》等の記号は、本文の内容の難易度、設問全体の総合的難易度。

試験日	出典	本文	設問
2/1	『狭衣物語』	狭衣中将が内裏からの帰途、女車に遭遇する。なにやら怪しげであるし、振る舞いも失礼で、中将の隨身が咎めると、はたして仁和寺の某威儀師が長年懸想していた姫君を盗み出して連れて行くとしていたのだった。冒頭2台の牛車が行き違う。共に供のものを連れているので4行目に「供なる童」とあるのが、どちらの車の供なのか、落ち着いて推理しないとわけが分からなくなる。そのため、丁寧に読み解いていかなければならない。 《約890字》《やや難》	古典常識(1) 解釈・現代語訳(4) 語句の意味(1)計4題 漢字の読み(1)計2題 空欄補充(2) 心情説明(2) 文法(「かくなせそ」「侍りつるなめり」品詞分解) (1)計2題 内容理解(1) 主体判定(1) 文学史(1) 全15問《やや難》
2/2	『沙石集』	何人かできじ引きをし、組み合わせを決めてお互いに贈り物をすれば不慮の災難を避けられるということが流行し、とある公卿の御所では、貧しい侍がなんと主の相手となってしまった。当然相手に見合うだけの贈り物ができるはずもなく、恥をかかぬよう出家してしまおうと決意し、その旨を長年連れ添った妻に語ると…文章は読みにくいわけではないが、設問の選択肢が、本文の単純な訳ではなく、やや突っ込んだ解釈や理解が必要なものが含まれている。 《約1430字》《標準》	語句の意味(1)計5題 内容説明(2) 解釈・現代語訳(2) 文法(敬語の種類・助動詞の意味・「にて」の識別)(3)計5題 理由説明(1) 四字熟語(1) 敬意の対象(1) 心情説明(1) 空欄補充(1) 内容理解(1) 全14問《やや難》
2/3	『源氏物語』 「賢木」	帝ご寵愛の朧月夜が病のために里下がりする。その朧月夜に懸想する光源氏は、朧月夜の姉、弘徽殿の太后(光源氏が政治的に対立する相手)も里にいる頃で恐ろしいが、逆にスリリングな逢瀬を楽しみに夜な夜な朧月夜の許へ忍んで行く。そんなある夜、にわか雨と雷鳴の騒ぎで帰邸できずにいた。翌朝、見舞いに来た朧月夜の父、右大臣に見つかってしまう。主体の省略が多く、心内語がむき出しで地の文に紛れていたりするので、丹念に場面を思い浮かべ文脈を辿っていかないと何が何だか分からなくなる。そのため、落ち着いて話を辿らなければならない。 《約1190字》《やや難》	語句の意味(1)計5題 解釈・現代語訳(3) 内容理解(4) 空欄補充(1) 記述現代語訳(1) 文法(「修法のべさすべかりけり」品詞分解)(1) 人物指摘(1) 空欄補充(記述)(1) 漢字の読み(1) 内容不整合(1) 全15問《やや難》
2/4	『春の深山路』	鎌倉時代の公家、飛鳥井雅有の日記の一節。後深草院及びその皇子である東宮に仕える作者は、近いうちに故郷鎌倉に下向することが決まっている。その作者との別れを惜しみ、院が過日の褒美にと、側近くで作者が見たがっていた昔の仮名日記を下賜(または貸し出し)して下さり、杯を下さる場面や、同じく別れを惜む東宮の様子や東宮御所で過ごした夜の様子が描かれている。日記特有の省略の多い文体であること、また、この場で行われている人と人とのやりとりが、普段受験生が読み慣れているような物語のそれとは違うこと、注の付け方が少し不親切であることなどにより、読解はやや困難だったのではないかと。 《約1310字》《やや難》	文法(助動詞の意味の組み合わせ・「なむ」の識別)(2) 漢字の読み(1) 解釈・現代語訳(2) 内容説明(1) 語句の意味(1)計3題 敬意の対象(1)計2題 内容説明記述(20字)(1) ことわざの意味(1) 空欄補充(記述)(1) 記述現代語訳(1) 内容理解(1) 全13問《やや難》
2/6	『枕草子』	日記的な章段(130段)と随想的な章段(251段・249段)の3つの文章からの出題。テーマ的に緩やかに繋がってはいるが、複数文章にまたがって思考しなければならないような設問はない。130段の文章の中の、筆者と頭中将藤原斉信との会話は注無しでは読解ができない。会話の内容に関する設問も若干ながらある。読解できずとも書かれている字面からなんとか推理することはでき、他の多くの設問に対する解答は出せるものの、受験生にとって判断が難しかったのではないかと。 《約1280字》《やや難》	文法(品詞分解)(1)計3題 語句の意味(1)計6題 解釈・現代語訳(2)計4題 記述現代語訳(1) 空欄補充(1) 内容不整合(1) 文学史(1) 全8問《標準》
2/7	『住吉物語』	少将は中納言の3人の娘のうち、実母を亡くした大君を慕っていたが、継母の妨害により、その実の娘である三の君としか会うことができずにいた。なんとか大君の姿形を見たいと中納言の邸をこっそり訪問して立ち聞きをし、侍女を通して大君に懸想文を渡したり、大君が妹姫らとともに出かける先へ先回りしたりする。 《約1040字》《標準》	語句の意味(1)計3題 漢字の読み(1) 解釈・現代語訳(2) 記述現代語訳(2) 理由説明(1) 主体判定(1)計4題 空欄補充(記述)(1) 敬意の対象(1)計3題 内容説明理解記述(3字)(1) 空欄補充(1) 文法(「さぶらふ」を活用させる)(1) 内容理解(1) 内容不整合(1) 全15問《標準》

<同志社大学>

古文 問題文・設問の概要

※ 各項目の《難》《易》等の記号は、本文の内容の難易度、設問全体の総合的難易度。

試験日	出典	本文	設問
2/5	『今昔物語集』	源頼光朝臣の家で酒を飲んでいて平貞道という武士は、ある男を殺せと言われた。数日後たまたまその男に出くわした貞道は、ひとまず事情を聞くことにした。 《約1600字》《標準》	語句の意味(1)計2題 傍線部解釈・内容説明(3) 文法的説明(1) 内容合致(1) 30字記述(1) 全7問《標準》
2/6	『沙石集』	どんな人間にも、逃れられない癖がある。そうした偏りをやめて囲碁や酒を愛するのと同じように、一心不乱に仏道修行すべきである。 《約1000字》《標準》	語句の意味(1)計2題 傍線部解釈・内容説明(3) 主体判定(1)計3題 内容合致(1) 30字記述(1) 全7問《標準》
2/7	『住吉物語』	姫君の妹の婿となった少将であるが、姫君のことを忘れることができなかった。そこで、姫君に仕える侍従に思いを告げるが、結局、会うことができなかった。 《約900字》《標準》	語句の意味(1)計2題 傍線部解釈・内容説明(3) 文法的説明(1) 内容合致(1) 30字記述(1) 全7問《標準》
2/8	『塵塚物語』	弁舌に優れた僧の話により、様々な人が金銀財宝を渡して仏事に供養することになったが、しだいに威勢比べのようになってしまった。その後は法談をやめて隠居した。 《1100字》《標準》	語句の意味(1)計2題 傍線部解釈・内容説明(3) 文法的説明(1) 内容合致(1) 30字記述(1) 全7問《標準》
2/9	『鼠の草子』	権頭(ごんのかみ)は姫君を寵愛することこの上なかったが、異常な寵愛ぶりを不審に思った姫君が畏を仕掛けたことにより、その正体が鼠だと分かった。 《約1100字》《標準》	語句の意味(1)計2題 傍線部解釈・内容説明(3) 文法的説明(1) 内容合致(1) 30字記述(1) 全7問《標準》
2/10	『源家長日記』	女の詠み手が少ないことを後鳥羽院が嘆いていらっしやった時、源家長はとある巻物に、さぞかし立派な和歌が女の筆跡で書かれてあるのを見つけた。 《約1200字》《標準》	語句の意味(1)計2題 傍線部解釈・内容説明(3) 主体判定(1)計3題 内容合致(1) 30字記述(1) 全7問《標準》

<立命館大学>

古文 問題文・設問の概要

※ 各項目の《難》《易》等の記号は、本文の内容の難易度、設問全体の総合的難易度。

試験日	出典	本文	設問
2/1	『俊頼髓脳』	独立した二つの箇所から構成した問題文。三首の和歌について、それぞれの解釈及び疑義を提示している。本文中に和歌六首が含まれていたことは、受験生にとって読解しづらかったかと思われる。 《約1270字》《標準》	文法(1)計5題 記述式現代語訳(1)計2題 空欄補充(1) 説明(2) 内容合致(1) 文学史(1) 和歌修辭(1) 全8問《標準》
2/2	『堤中納言物語』	第一及び第二段落は頭中将と姫君との関係を画策する小舎人童と女童とのやりとり、第三段落は頭中将に仕える若い男と小舎人童とのやりとりを通じて、この若い男と姫君に仕える侍従の君との和歌の贈答、第四段落は頭中将と若い男や小舎人童のやりとりを提示し、複数の人物が登場する内容となっている。人物整理を行いながら読解する必要がある。 《約1300字》《標準》	文法(1) 記述式現代語訳(1)計2題 空欄補充(1) 説明(4) 内容合致(1) 全8問《標準》
2/3	『文正草子』	常陸の国に住む文正には美しい娘が二人いた。このことを蔵人みつしげを通じて知った二位の中將は、心奪われて臥せってしまう。この二位の中將の様子を心配した兵衛佐、式部大夫、藤右馬助は、二位の中將を伴って常陸の国に下向する算段を考える。思案の結果、商人に変装してみんなで常陸の国に向かうこととなった。 《約1730字》《標準》	文法(1) 記述式現代語訳(1)計2題 空欄補充(2) 説明(4) 内容合致(1) 全9問《標準》
2/4	『新学異見』	賀茂真淵の著作『新学』を引用しながら、香川景樹が論評している文章。問題文では、『新学』の三節を引用して、それぞれについて独自の見解を開陳している。賀茂真淵が昔の歌風に戻れと主張するのに対して、香川景樹は、歴史的に変化していくとその時代の文化も変わるが、その文化的価値はそれぞれが相対的に認められるべきだと主張する。 《約1480字》《やや難》	文法(1)計5題 記述式現代語訳(1)計2題 現代語訳(1) 説明(4) 内容合致(1) 全8問《やや難》
2/7	『風に紅葉』	多くの珍しい漢籍を所有する承香殿の女御は、ひそかに大将に恋心を抱いていた。折しも大将から漢籍の閲覧依頼があり、これを利用して女御は自らの気持ちを大将に訴える。女御が里下がりの機会に大将は女御の邸を訪問する。しかし、大将にとって女御は思っていたほど心惹かれるものではなかった。 《約1280字》《標準》	記述式現代語訳(1)計2題 文法(1)計3題 説明(4) 和歌修辭(1) 内容合致(1) 全8問《標準》

§ 参考 <立命館大学・文学部> 漢文 設問の概要

試験日	出典	設問
2/1	『避暑録話』	書き下し(1)・読み(「爾」「孰」)(1)・空所補充(1)・内容合致(1) 全4問 《標準》
2/2	『虞初新志』	書き下し(1)・読み(「以是」「且」)(1)・空所補充(1)・内容合致(1) 全4問 《標準》
2/3	『孟子』	書き下し(1)・読み(「与」「未之有也」)(1)・空所補充(1)・内容合致(1) 全4問 《標準》
2/4	『唐鑑』	書き下し(1)・読み(「由」「不可不慎」)(1)・空所補充(1)・内容合致(1) 全4問 《標準》
2/7	『高青丘集』	書き下し(1)・読み(「堪」「忍見」)(1)・空欄補充(1)・内容合致(1) 全4問 《標準》

関西大学 古文 ◆ 設問分析 ◆

		2月1日	2月2日	2月3日	2月5日	2月6日	2月7日	合計	占有率
基礎	古文漢字読み							0	0%
	語義・古典常識							0	0%
	文法							0	0%
	文学史							0	0%
	修辞							0	0%
空所補充								0	0%
主語・動作主・敬語等								0	0%
現代語訳・解釈								0	0%
内容把握		8	8	8	10	10	10	54	95%
本文内容合致								0	0%
主旨判別								0	0%
記述	現代語訳	1	1	1				3	5%
	内容説明							0	0%
	内容把握(抜出)							0	0%
							総設問数	57	

※上記数字は小設問の数

同志社大学 古文 ◆ 設問分析 ◆

		2月5日	2月6日	2月7日	2月8日	2月9日	2月10日	合計	占有率
基礎	古文漢字読み							0	0%
	語義・古典常識	2	2	2	2	2	2	12	23%
	文法	1		1	1	1		4	8%
	文学史							0	0%
	修辞							0	0%
空所補充								0	0%
主語・動作主・敬語等			3				3	6	12%
現代語訳								0	0%
解釈・内容把握		3	3	3	3	3	3	18	35%
本文内容合致		1	1	1	1	1	1	6	12%
漢文に関する問題								0	0%
記述	現代語訳							0	0%
	内容・理由説明	1	1	1	1	1	1	6	12%
	内容把握(抜出)							0	0%
							総設問数	52	

※上記数字は小設問の数

関西学院大学 古文 ◆ 設問分析 ◆

		2月1日	2月2日	2月3日	2月4日	2月6日	2月7日	合計	占有率
基礎	漢字読み・書き	2		1	1		1	5	4%
	語義・古典常識	5	6	5	4	6	3	29	25%
	文法	2	5	1	2	3	1	14	12%
	文学史	1				1		2	2%
	修辞							0	0%
空所補充		2	1	2		1	2	8	7%
主語・動作主・敬語等		1	1	2	2		7	13	11%
現代語訳・解釈		4	2	2	2	4	2	16	14%
内容把握		3	5	4	2		2	16	14%
本文内容合致				1		1	1	3	3%
主旨判別								0	0%
記述	現代語訳			1	1	1	2	5	4%
	内容説明				1		1	2	2%
	内容把握(抜出)				1			1	1%
							総設問数	114	

※上記数字は小設問の数

立命館大学 古文 ◆ 設問分析 ◆

		2月1日	2月2日	2月3日	2月4日	2月7日	合計	占有率	
基礎	古文漢字読み						0	0%	
	語義・古典常識						0	0%	
	文法	5	1	1	5	3	15	25%	
	文学史	1					1	2%	
	修辞	1				1	2	3%	
空所補充		1	4	2			7	12%	
主語・動作主・敬語等							0	0%	
現代語訳・解釈					1		1	2%	
内容把握		2	4	4	4	4	18	31%	
本文内容合致		1	1	1	1	1	5	8%	
主旨判別							0	0%	
記述	現代語訳	2	2	2	2	2	10	17%	
	内容説明						0	0%	
	内容把握(抜出)						0	0%	
							総設問数	59	

※上記数字は小設問の数